

## 資料 2

# 第2回 富士河口湖町宿泊税検討委員会 協議資料

2025年9月9日

# 本検討の開催スケジュール

- ・ 2か月に1度程度、合計4回の開催を想定。

| 回   | 時期           | 議論内容                                                                                                                                                                                         |
|-----|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 2025年7月29日   | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 会議の目的と進め方の確認</li><li>・ これまでの検討経緯</li><li>・ 富士河口湖町の現状（人口動態、予算、宿泊者数、観光振興の取り組み経緯 など）</li></ul>                                                          |
| 第2回 | 9月9日<br>（本日） | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 前回議論の振り返り</li><li>・ 宿泊事業者アンケート結果について</li><li>・ 宿泊税の使途について</li><li>・ 宿泊税の導入についての協議</li><li>・ 宿泊税の制度設計について①（使途、課税客体・納税義務者、徴収方法、税率、課税免除／免税点等）</li></ul> |
| 第3回 | 10～11月       | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 前回議論の振り返り</li><li>・ 宿泊税の制度設計について②（使途、課税客体・納税義務者、徴収方法、税率、課税免除／免税点等）</li><li>・ 宿泊税制度の骨子案（答申内容のたたき台）の確認</li></ul>                                       |
| 第4回 | 2026年1月      | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 前回議論の振り返り</li><li>・ 検討委員会としての答申（提言）内容について</li></ul>                                                                                                  |

# 全体の検討スケジュール

| 時期      | 内容       |                 |
|---------|----------|-----------------|
| 2025年7月 | 第1回検討委員会 | 宿泊事業者アンケート      |
| 8月      |          |                 |
| 9月      | 第2回検討委員会 | 宿泊事業者ヒアリング      |
| 10月     |          |                 |
| 11月     | 第3回検討委員会 | 有識者意見聴取         |
| 12月     |          | (パブリックコメント)     |
| 2026年1月 | 第4回検討委員会 | (条例案上程 (3月議会) ) |
| 2月      |          |                 |
| 3月      |          | (条例案可決 (3月議会) ) |

(2026年度以降に想定される主な流れ)

- ・総務省との協議 (通常3ヶ月程度)
- ・宿泊事業者向け税制度に関する周知 (説明会、チラシ作成など)
- ・特別徴収義務者登録募集

# 目次

1. 前回議論の振り返り
2. 宿泊事業者アンケート結果について
3. 宿泊税の導入検討について
4. 宿泊税の使途について
5. 宿泊税の制度設計について

# 1. 前回議論の振り返り

| 質問・意見等                                                                                                                                                                                            | 質問・意見に対する見解等                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>今回の委員会は、宿泊税の導入ありきでの委員会なのか、もしくは導入するかどうかを検討する場なのか</p>                                                                                                                                            | <p>宿泊税の導入ありきで議論をする場ではないが、町としては新たな観光振興財源として宿泊税の検討を進めている。（中略）委員会の中で様々な意見を出していただいて、検討できればと思う。（補記有）</p> |
| <p>延べ宿泊者数が約<b>303</b>万人とあるが、これは何施設の回答をもとに出した数字なのか<br/>・・・・・・・・・・</p> <p>富士河口湖町には小さい施設も多いが、観光庁の宿泊統計では大きい施設の回答をもとに宿泊者数を算出している（中略）</p> <p>宿泊税の制度を細かく決めていく際に、そのような小規模な施設でのカウントが正確にできているかどうか、重要な問題</p> | <p>約<b>650</b>ある全施設のうち、<b>70～80</b>件の施設の回答から、全体から回答を得た場合の回答傾向と同じになるよう、統計的な処理を経て拡大推計を行っている。</p>      |
| <p>宿泊税を導入したことで、お客様が減ったという地域はあるのか</p>                                                                                                                                                              | <p>導入をきっかけに宿泊者数が大きく減ったという（中略）事例はない</p>                                                              |

| 質問・意見等                                                                       | 質問・意見に対する見解等                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>商工費としての歳出が約5.7億とあるが、宿泊税が導入された場合は、この歳出分が減るということか</p>                       | <p>宿泊税は目的税なので、観光振興以外に使われるということはないという前提であるが、今の商工費のうち、観光振興に支出している分は、宿泊税を活用した事業としていくことも検討し、その分他の財源から充当していた分が減るということはある。宿泊税が導入されれば、一部は基金とすることも考えているため、全てを単年で使うわけではないが、歳出のうち商工費の観光関連予算の割合は増えていくと想定される。</p> |
| <p>教育旅行にもいろいろとあり、修学旅行だけでなくスポーツや音楽の合宿も多く受け入れている。教育旅行を免税しているのは京都市以外にもあるのか。</p> | <p>教育旅行へ免税しているのは京都市だけではない。学校教育法に基づく学校からの学生が来た場合には免除する等の明確な基準が必要になる。</p>                                                                                                                               |
| <p>合宿の利用は、小学生から大学生、社会人と年齢も幅広いため、基準をはっきりさせたい</p>                              |                                                                                                                                                                                                       |

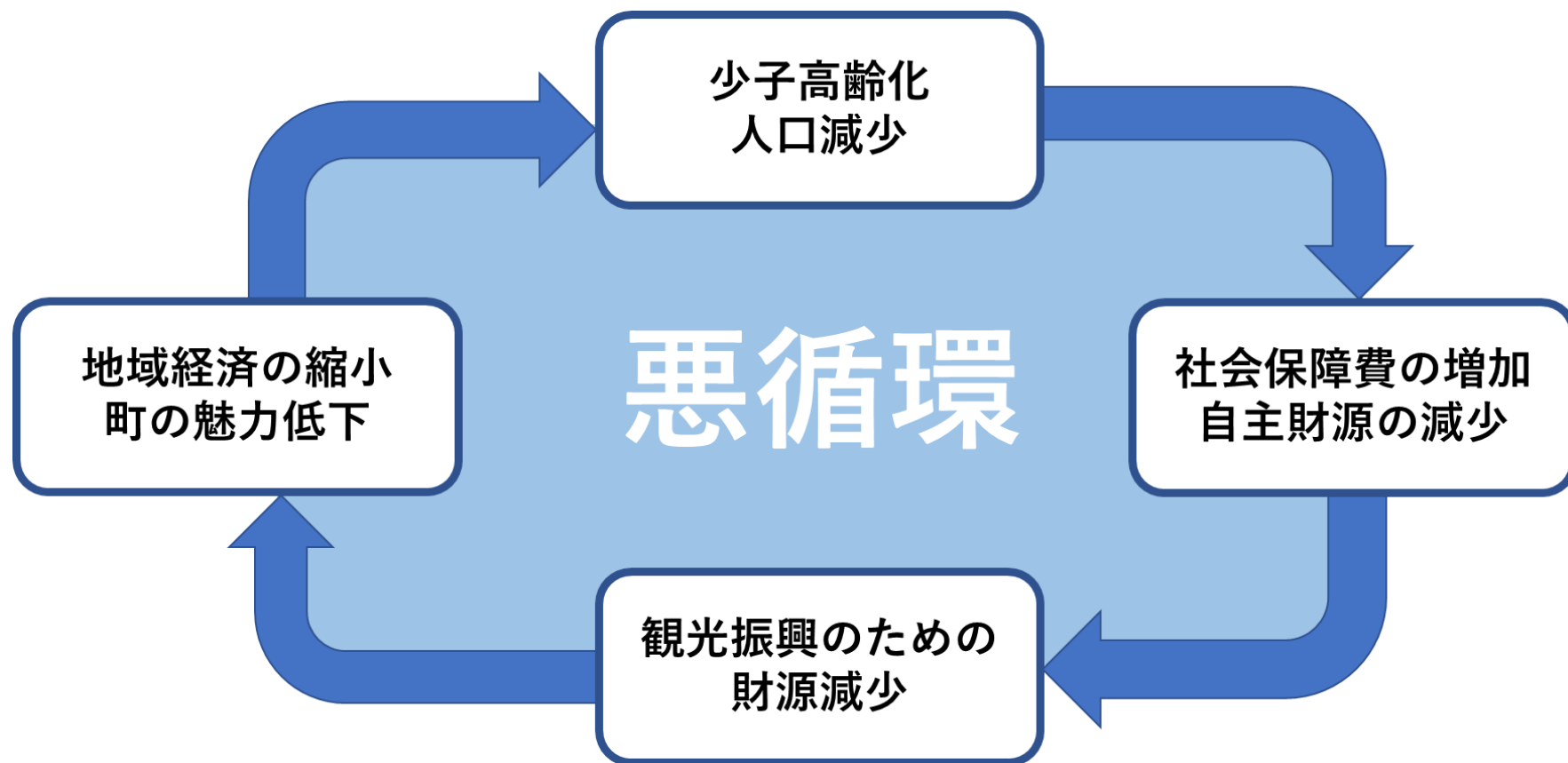
| 質問・意見等                                                                                                            | 質問・意見に対する見解等                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| <p>他地域での事例として、まずは一律で徴収し、義務教育での合宿や教育旅行には補助金を出すというやり方をしているところもある。富士河口湖町は富士河口湖町のやり方を今後模索することが重要</p>                  |                                                                         |
| <p>一住民として考えたときに、今後人口が減少する一方で子育てや介護にかかる支出が増えていくことに不安がある。その中で、せっかく宿泊税として財源を確保できる手段があるのであれば、その方が町の将来のためにも良いかと思う。</p> |                                                                         |
| <p>ある金額以下や、学生の合宿は免除というように初めから決めた方が良いかと思う</p>                                                                      |                                                                         |
| <p>宿泊者のみに負担をかけるのが良いのかという問題もある。富士河口湖町は日帰りのお客様が多く、オーバーツーリズムを引き起こしているのは日帰り客の影響だと思う。</p>                              | <p>駐車場に課税するくらいしか方法はないのが現状。（中略）<br/>日帰りの方から徴収するには、それなりに手法を検討する必要がある。</p> |

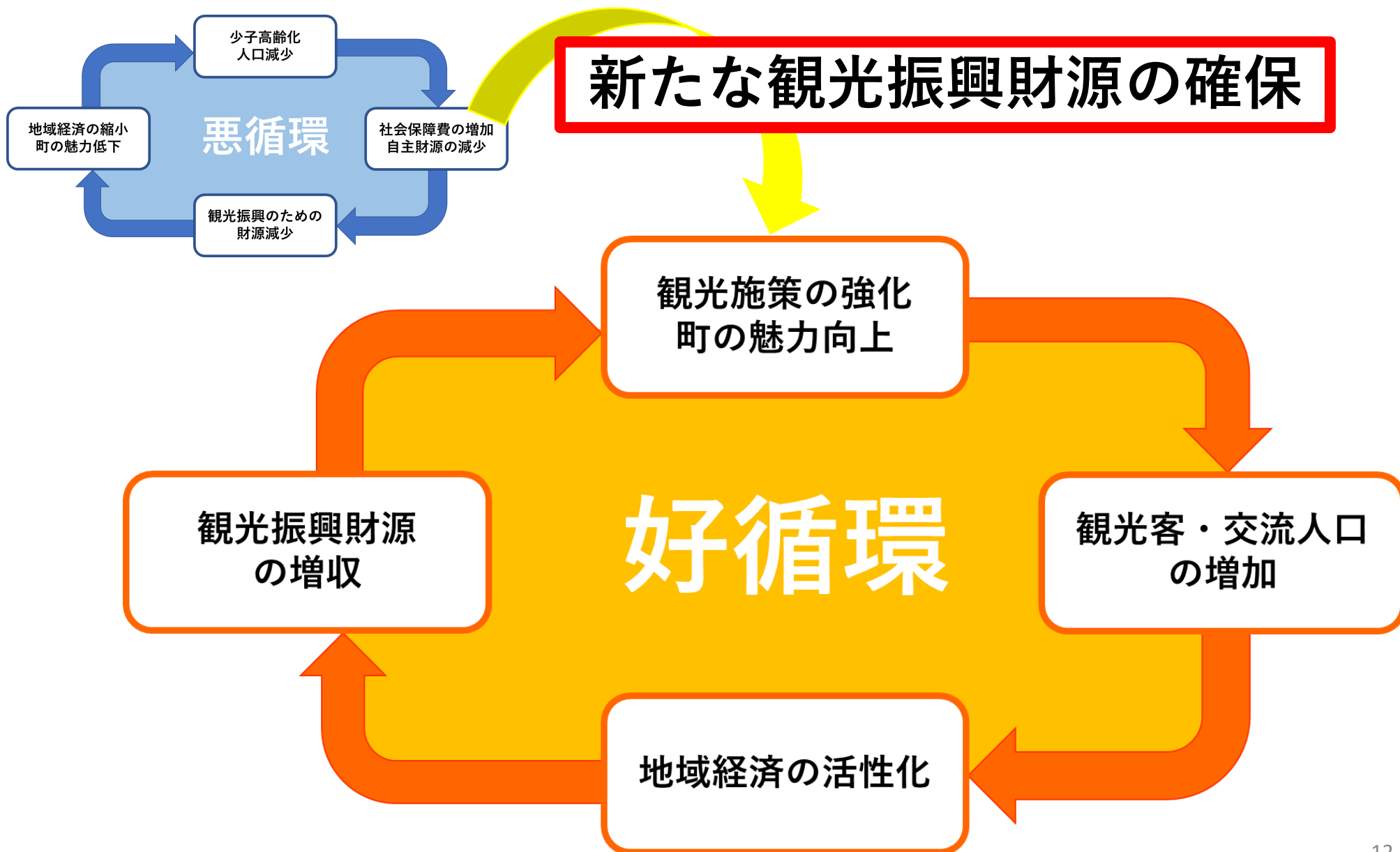
## 2. 宿泊事業者アンケート結果について

※別紙 資料3 参照

### 3. 宿泊税の導入検討について

## 今後、町を取り巻く課題

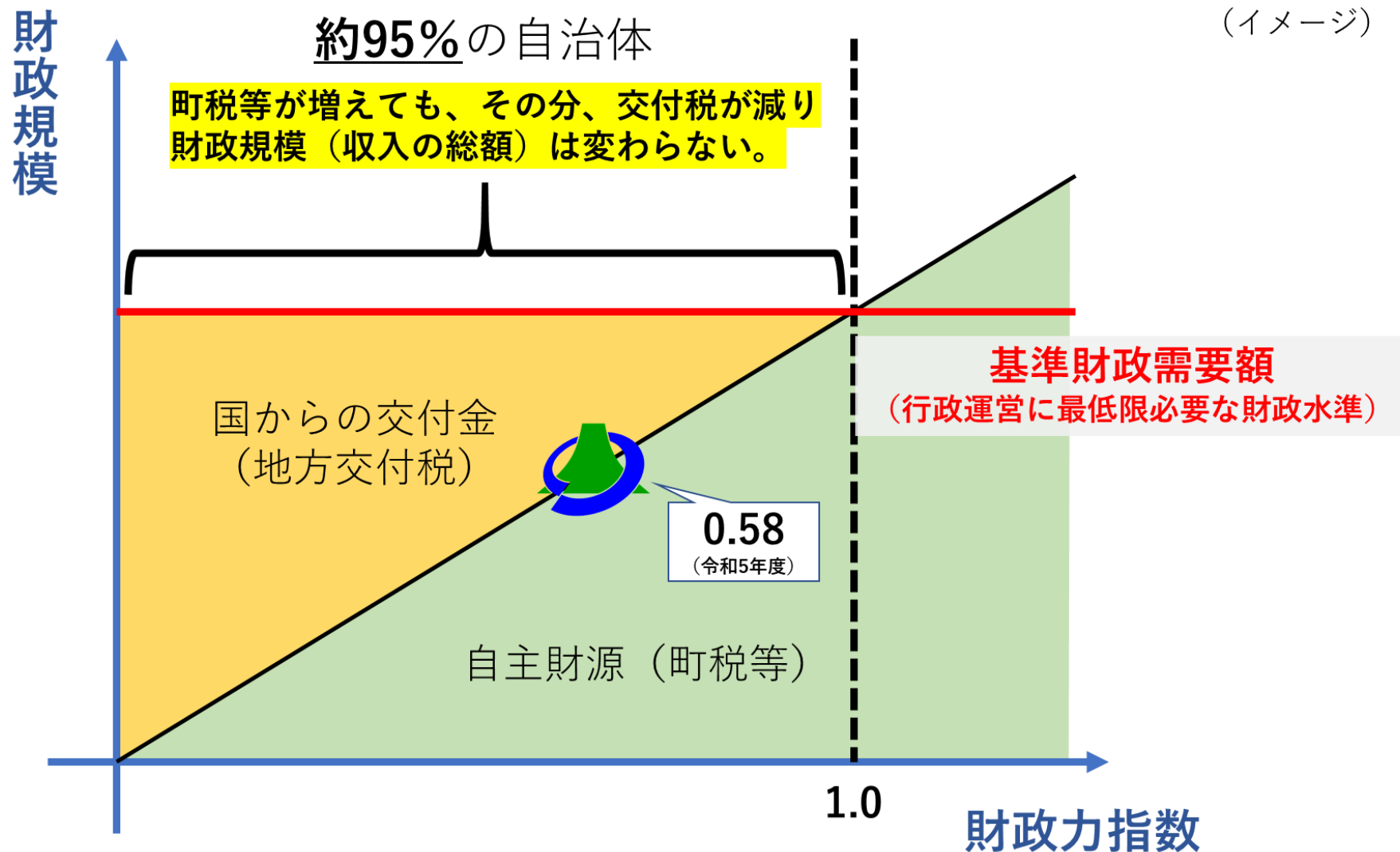




（第1回検討委員会資料より）

- 町の総人口は長期的には減少傾向にあり、生産年齢人口も2010年以降は減少傾向にある。一方で高齢化率は増加傾向にある。
- 地方税の税収は2025年をピークに減少傾向に転じることが見込まれる。その一方で、社会保障関係費は高止まりの傾向にある。
- 上記の背景を受け、町では健全な財政運営を推進するため、町税等の徴収率向上やふるさと納税制度の活用などにより、安定的な財源確保に努めてきた。しかしながら、人口や税収の減少などの要因から自主財源の減少が見込まれている。
- 一方で、国内観光客数の減少と訪日インバウンドが成長している中で、観光地間の競争の激化と魅力向上の必要性が高まっている。
- 富士河口湖町が魅力あふれる観光地として発展していくためには、観光振興や観光まちづくりなど観光業の活性化に取り組んでいく必要があり、そのためには新たな観光振興財源の確保が必要となる。

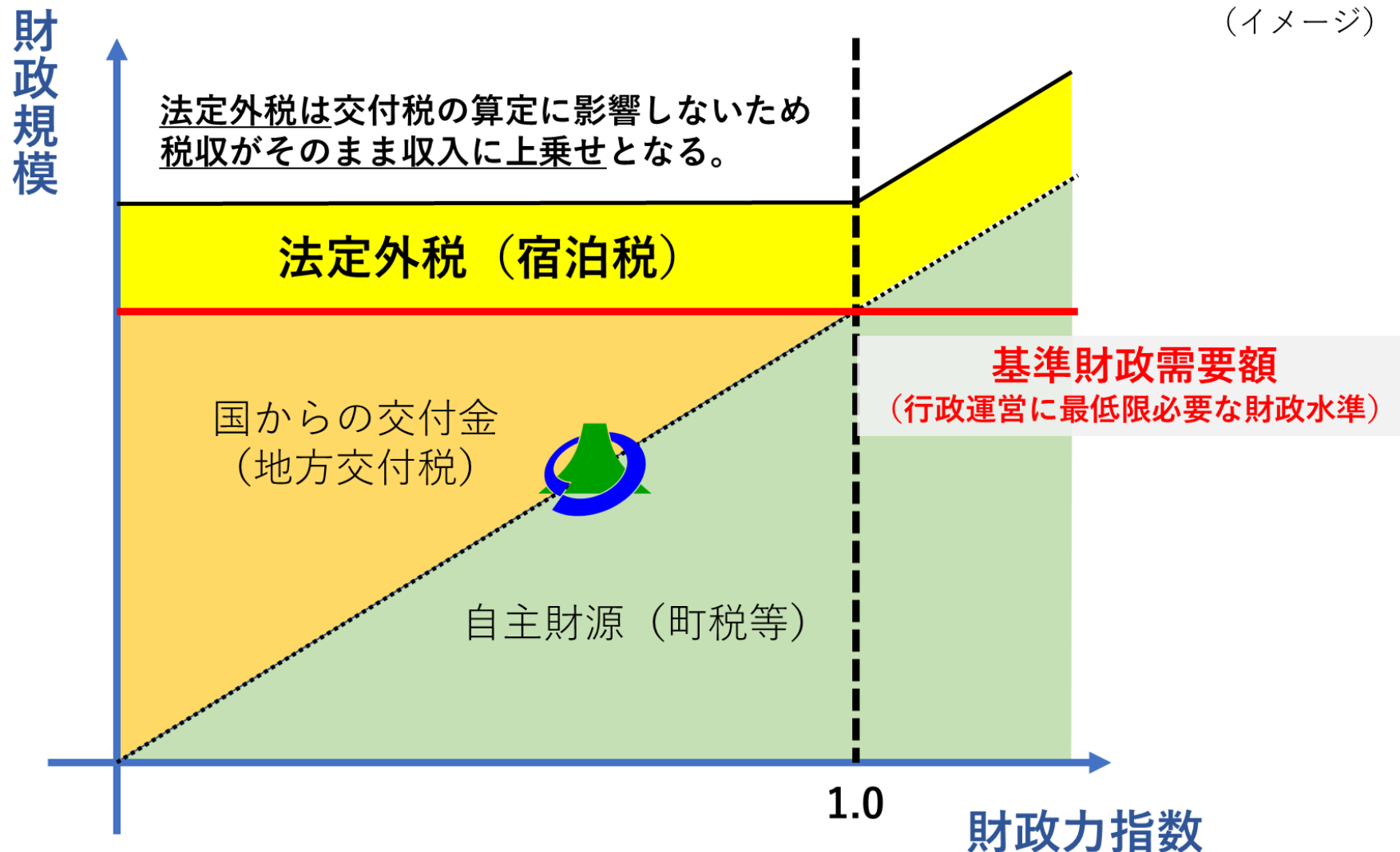
## 観光客が増えても町の収入は変わらない！？



# なぜ宿泊税に着目するのか（再確認）

法定外税（宿泊税）はプラス $\alpha$ の収入  
かつ、観光振興と連動（観光を頑張れば税収が増える）

（イメージ）



- わが国で利用できる観光振興のための公的財源としては、法定外税／分担金／負担金／協力金／寄付金（ふるさと納税含む）等があり、それぞれに特徴を有する。
- その中でも、法定外税の一つである「宿泊税」は
  - ✓ 観光振興施策を推進することが税収増に直結するため、観光立町を標榜する当町の目指す方向性とも親和性が高い
  - ✓ 当町の宿泊産業の集積をベースとして一定の担税力（税負担力）が見込める
  - ✓ 海外で一般的であることから、訪日外国人観光客（インバウンド）の理解が得やすいといった特徴を有する。
- また、観光振興の取り組みの受益者である観光客に対して相応の負担を求めることには一定の妥当性がある。
- 実施した宿泊事業者を対象としたアンケートにおいても、（「どちらとも言えない」を除くと）「導入に賛成」が「導入に反対」を若干上回る。
- このため、本検討委員会では、新たな観光振興のための財源として宿泊税を対象とし、検討を行うこととしたい。

| 種類         | 内容                  | 安定性・継続性       | 受益と負担の範囲 | 財源としての規模      |
|------------|---------------------|---------------|----------|---------------|
| 法定外税       | 市町村が独自に条例で定める税金     | ○<br>安定的・継続的  | ○<br>広範  | ○<br>規模の確保が可能 |
| 分担金<br>負担金 | 特定の事業に対して受益者が負担する費用 | △<br>安定的・非継続的 | △<br>限定的 | △<br>限定的      |
| 使用料        | 公共施設の利用等に対して支払う費用   | ○<br>安定的・継続的  | △<br>限定的 | △<br>限定的      |
| 協力金        | 特定の行為等に対して任意に負担する費用 | △<br>不安定・継続的  | △<br>限定的 | △<br>限定的      |
| 寄付金        | 無償で供与される金銭その他の財産等   | ×<br>不安定・非継続的 | ×<br>なし  | ○<br>規模の確保が可能 |

# 他に検討されうる法定外目的税との比較

| 課税される行為 | 対象者の捕捉の容易さ               | 徴収コスト                        | 関係する主体の把握の容易さ        | その他                                               |
|---------|--------------------------|------------------------------|----------------------|---------------------------------------------------|
| 入域      | △<br>観光以外の切り分けが困難        | ×<br>非常にコストがかかる<br>(新たな徴収体制) | △<br>範囲設定による         | 観光目的か否かの線引きができない。<br>範囲の設定が困難であり、物流に影響を与える可能性も有る。 |
| 駐車場利用   | △<br>観光以外の切り分けが困難        | ×<br>非常にコストがかかる<br>(新たな徴収体制) | △<br>範囲設定による         | 町が管理する駐車場の大部分は河川等の借地であり、徴税可能な駐車場がほとんど存在しない。       |
| 飲食行為    | ×<br>観光以外の切り分けが非常に困難     | ○<br>既存の徴収体制での徴収が可能          | ×<br>対象施設が非常に多く把握が困難 | 観光目的か否かの線引きができない。                                 |
| 宿泊行為    | ○<br>比較的容易<br>(大部分が観光目的) | ○<br>既存の徴収体制での徴収が可能          | ○<br>対象施設の把握が容易      | 他自治体での導入事例が多い。                                    |
| 観光施設利用  | ○<br>比較的容易<br>(大部分が観光目的) | △<br>コストがかかる<br>(対象の設定による)   | ×<br>対象施設が非常に多く把握が困難 | 関係施設が多く、その形態も多様であり、線引きができない。                      |

## 4. 宿泊税の使途について

- 持続可能な観光地を形成するためには、「観光地」を「マネジメント」していくという意識が必要。
- その際には、
  - 来訪者視点
  - 事業者視点
  - 地域社会視点
  - 環境・文化視点

をバランスよく掛け合わせた取組みを、戦略的に実施することが重要となる。

観光地マネジメントのための「VICEモデル」



- 来訪者視点：観光客の体験価値の向上・維持

- 例）
- ・観光客に対する魅力ある体験を創出し、ブラッシュアップする
  - ・受け入れ環境を整え、来訪者にとっての快適性、利便性、安心感を高める
  - ・来訪者の属性や行動、意識などをデータを元に的確に把握し、それに応じた体験を提供することで、満足度や再来訪意向を高める

- 事業者視点：持続的な観光産業の構築

- 例）
- ・提供されるサービスの多様化、高付加価値化を実現し、観光産業としての持続性を高める
  - ・サービスの基本となる働き手を確保し、長期的視点を持って育成し定着を図る
  - ・現場にAIをはじめとする技術導入を図り、効率性と生産性を向上する

- 地域社会視点：観光と地域社会の共存・町民生活の向上

- 例）
- ・観光客増加に伴う生活への悪影響を軽減することで、地域住民の観光に対する理解と受容力を向上させる
  - ・観光客だけでなく、地域住民も利用できる社会インフラ（交通など）を整備する

- 環境・文化視点：地域固有の価値の保全・継承

- 例）
- ・観光客にとっての魅力の源泉であり、地域のアイデンティティの核ともなる地域資源（自然、景観、文化、歴史）を保全し、次世代に引き継いでいく

| 視点             |             |                    |               | その他 | 想定される主な新規・拡充事業              |
|----------------|-------------|--------------------|---------------|-----|-----------------------------|
| 観光客の体験価値の向上・維持 | 持続的な観光産業の構築 | 観光と地域社会の共存・町民生活の向上 | 地域固有の価値の保全・継承 |     |                             |
| ○              |             |                    | ○             |     | 新たな誘客イベントの開催・既存イベントの質向上     |
| ○              | ○           |                    |               |     | 観光関連施設(観光インフラ)の整備           |
| ○              |             | ○                  |               |     | 受入環境整備                      |
| ○              |             |                    |               |     | デジタルの活用（観光案内デジタル化、観光MaaS 等） |
| ○              | ○           |                    |               |     | 市場調査・分析                     |
| ○              |             |                    |               |     | 国内・国外へ向けた観光客誘致、プロモーション      |
| ○              |             | ○                  |               |     | 観光防災対策                      |
|                | ○           |                    |               |     | 事業者の高付加価値化支援                |
| ○              |             | ○                  |               |     | 観光公害（オーバーツーリズム）対策           |
| ○              |             | ○                  |               |     | 二次交通の充実や新たな移動手段の検討・構築       |
|                |             |                    | ○             |     | 観光資源に対する環境保全事業              |
|                |             |                    |               | ○   | 課税コスト（システム保守改修、広報経費、手数料）    |
|                |             |                    |               | ○   | 宿泊税周知ポスター、チラシ、充当事業説明資料      |
|                |             |                    |               | ○   | 宿泊事業者支援（奨励金）                |
| ○              | ○           | ○                  | ○             |     | プラスαの町独自の事業（施策）の展開          |

| 想定される主な新規・拡充事業                                                             | 財政需要額<br>(概算額) |
|----------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 新たな誘客イベントの開催・既存イベントの質向上                                                    | 10千万円          |
| 取り組み例) 各種イベントへの補助、ナイトタイムエコノミー 等                                            |                |
| 観光関連施設(観光インフラ)の整備                                                          | 10千万円          |
| 取り組み例) 観光案内所整備、ウォーキングトレイル整備、観光客利用道路（遊歩道含）整備、公衆トイレ整備 無電柱化 等                 |                |
| 受入環境整備                                                                     | 5千万円           |
| 取り組み例) 観光HPの機能強化、観光パンフレット（マップ）、交通機関や観光施設のリアルタイム情報の発信 等                     |                |
| デジタルの活用（観光案内デジタル化、観光MaaS 等）                                                | 1千万円           |
| 取り組み例) 観光パンフレット（マップ）のデジタル化、動画や音声を用いた観光案内、観光MaaS 等                          |                |
| 市場調査・分析                                                                    | 1千万円           |
| 取り組み例) 位置情報を利用したニーズ調査や動線調査、消費額調査 等                                         |                |
| 国内・国外へ向けた観光客誘致、プロモーション                                                     | 2千万円           |
| 取り組み例) HPやSNSによるコンテンツの作成・発信、旅行会社等による情報提供 等                                 |                |
| 観光防災対策                                                                     | 5千万円           |
| 取り組み例) 外国語へ対応した安全マップの作成、宿泊施設への備蓄食料提供や町避難所の受入設備等の充実 等                       |                |
| 事業者の高付加価値化支援                                                               | 5千万円           |
| 取り組み例) デジタル化やキャッシュレス化、バリアフリー化対応支援、多言語化・多様化に対する支援、ユニバーサルデザインの導入、観光従事者確保支援 等 |                |

| 想定される主な新規・拡充事業                                                                   | 財政需要額<br>(概算額) |
|----------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 観光公害（オーバーツーリズム）対策                                                                | 10千万円          |
| 取り組み例）観光客の一極集中解消（分散化）への対策、観光公害発生時の地域対応 等                                         |                |
| 二次交通の充実や新たな移動手段の検討・構築                                                            | 5千万円           |
| 取り組み例）路線バスの新規路線の設定や本数の充実化、ライドシェア、乗合タクシー、自動運転バス 等                                 |                |
| 観光資源に対する環境保全事業                                                                   | 10千万円          |
| 取り組み例）町の重要な観光資源である景観保全や自然環境保全、生活環境保全 等                                           |                |
| 課税コスト（システム保守改修、広報経費、手数料）                                                         | 0.5千万円         |
| 取り組み例）課税に伴うシステム改修費や広報経費、手数料 等                                                    |                |
| 宿泊税周知ポスター、チラシ、充当事業説明資料                                                           | 0.5千万円         |
| 取り組み例）宿泊税周知のための印刷物、宿泊税充当事業説明のための印刷費用 等                                           |                |
| 宿泊事業者支援（奨励金）                                                                     | 3千万円           |
| 取り組み例）特別徴収事務に対する経費の一部を支援費用                                                       |                |
| プラスαの町独自の事業（施策）の展開                                                               | +α             |
| 取り組み例）富士河口湖町の観光マネジメントを目的としたDMOの設立、視点場や各地区の観光拠点の整備、湖・山のアクティビティの構築、災害やパンデミックへの対応 等 |                |

## 5. 宿泊税の制度設計について

# 導入済地域における制度概要（市町村のみ）

|        |             | 京都市                                                                      | 金沢市                                                                     | 倶知安町                                                                                               | 福岡市                                                                           | 北九州市                                                  | 長崎市                                                                     | 二セコ町                                                                                                                      | 常滑市                | 熱海市                                                                             |
|--------|-------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 導入年    |             | 2018年                                                                    | 2019年                                                                   | 2019年                                                                                              | 2020年                                                                         | 2020年                                                 | 2023年                                                                   | 2024年                                                                                                                     | 2025年              | 2025年                                                                           |
| 課税客体   | ホテル、旅館、簡易宿所 | ○                                                                        | ○                                                                       | ○                                                                                                  | ○                                                                             | ○                                                     | ○                                                                       | ○                                                                                                                         | ○                  | ○                                                                               |
|        | 住宅宿泊事業（民泊）  | ○                                                                        | ○                                                                       | ○                                                                                                  | ○                                                                             | ○                                                     | ○                                                                       | ○                                                                                                                         | ○                  | ○                                                                               |
|        | その他（特区民泊）   |                                                                          |                                                                         |                                                                                                    |                                                                               | ○                                                     |                                                                         |                                                                                                                           |                    |                                                                                 |
| 納税義務者  |             | 宿泊者                                                                      |                                                                         |                                                                                                    |                                                                               |                                                       |                                                                         |                                                                                                                           |                    |                                                                                 |
| 課税タイプ  |             | 段階的定額制                                                                   | 段階的定額制                                                                  | 定率制                                                                                                | 段階的定額制                                                                        | 定額制                                                   | 段階的定額制                                                                  | 段階的定額制                                                                                                                    | 定額制                | 定額制                                                                             |
| 課税標準   |             | 宿泊数                                                                      |                                                                         | 宿泊料金<br>(1人or1部屋or1棟)                                                                              | 宿泊数                                                                           |                                                       |                                                                         |                                                                                                                           |                    |                                                                                 |
| 税率（税額） |             | 1人1泊について、<br>宿泊料金が<br>① 2万円未満：200円<br>② 2万円～5万円未満：500円<br>③ 5万円以上：1,000円 | 1人1泊について、<br>宿泊料金が<br>① 5千円未満：課さない<br>② 5千円以上2万円未満：200円<br>③ 2万円以上：500円 | 1人1泊または、1部屋1泊の宿泊料金の2%<br><br>(2026年4月以降)<br>同 3%                                                   | 宿泊者1人1泊につき、<br>① 宿泊料金2万円未満：200円<br>(うち県税50円)<br>② 宿泊料金2万円以上：500円<br>(うち県税50円) | 宿泊者1人1泊につき<br>200円<br>(うち県税50円)                       | 1人1泊について、<br>宿泊料金が<br>① 1万円未満：100円<br>② 1万円以上2万円未満：200円<br>③ 2万円以上：500円 | 1人1泊について、<br>宿泊料金が<br>① 5千1円未満：100円<br>② 5千1円以上2万円未満：200円<br>③ 2万円以上5万円未満：500円<br>④ 5万円以上10万円未満：1,000円<br>⑤ 10万円以上：2,000円 | 宿泊者1人1泊につき<br>200円 | 宿泊者1人1泊につき<br>200円                                                              |
| 免税点    |             | なし                                                                       | 5千円未満                                                                   | なし                                                                                                 | なし                                                                            | なし                                                    | なし                                                                      | なし                                                                                                                        | なし                 | なし                                                                              |
| 課税免除   |             | ① 修学旅行その他学校行事<br>② 保育所、認定こども園、その他保育事業を行う施設                               | なし                                                                      | ① 修学旅行その他学校行事<br>② 大学、高専、専修学校の生徒・学生による職場体験                                                         | なし                                                                            | なし                                                    | ① 修学旅行その他学校行事<br>② その他市長が認める者                                           | ① 修学旅行その他学校行事<br>② その他町長が必要と認める者                                                                                          | なし                 | ① 小学生以下<br>② 修学旅行などの宿泊を伴う学校行事<br>③ 市長が災害などにより避難が必要と認めた人<br>④ その他公益上市長が特に必要と認める人 |
| 特別奨励金  |             | 納期限内納入額の3.0%<br>(導入後5年間は特例措置+0.5%)<br>交付上限：200万円                         | 納期限内納入額の2.5%<br>(導入後5年間は特例措置+0.5%)<br>交付上限：前期、後期それぞれ50万円                | ① 完納<br>納期限内納入額の2.5%<br>② 未納有<br>納期限内納入額の2.0%<br>③ 加算金を伴う増額時<br>納期限内納入額の1.0%<br>(導入後5年間は特例措置+0.5%) | 納期限内納入額の2.5%<br>(導入後5年間は特例措置+0.5%)<br>(電子申告の場合は+0.5%)                         | 納期限内納入額の2.5%<br>(導入後5年間は特例措置+0.5%)<br>(電子申告の場合は+0.5%) | 納期限内納入額の2.5%<br>交付上限：50万円                                               | 納期限内納入額の5.0%                                                                                                              | 納期限内納入額の2.5%       | 納期限内納入額の2.5%<br>(導入後5年間は特例措置+0.5%)                                              |

# 定額制および段階的定額制と定率制の特徴比較

|             |        | 定額制                                                         | 段階的定額制                                                                        | 定率制                                                                 |
|-------------|--------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 税収入額        |        | ・宿泊単価の上昇は、あまり税収に影響しない。                                      | ・宿泊単価の上昇が、税収に一定程度影響を与える。                                                      | ・宿泊客数と宿泊単価が上昇すれば、税収も増加する。                                           |
| 「観光客」の負担    |        | ・安価な宿泊費に対しては、負担が大きくなる傾向がある。<br>・質（単価、季節性）が変更となっても負担額は同一。    | ・一定額以上の単価に合わせて、税額が増加するため、高額宿泊者に相応の負担が生じる。（安価な宿泊者への負担は、変更はない。）                 | ・宿泊単価に対応した税額。<br>・質（単価、季節性）に応じた税額。                                  |
| 「事業者」の負担    | 徴収の時期  | ・決済時やチェックアウト時でも徴収可能。                                        | ・宿泊料金確定時に、徴収が可能。                                                              | ・宿泊料金確定時に、徴収が可能。                                                    |
|             | 課税額の算出 | ・課税額が一律のため、容易に算出可能となる。<br>（食事代やサービス料等の算出が不要）                | ・課税額が一律でないため、宿泊料金や価格帯別の宿泊人数の算出が必要となる。<br>（食事代やサービス料等が含まれている場合<br>宿泊料金の算出を要する） | ・課税額が一律でないため、宿泊料金の算出が必要となる。<br>（食事代やサービス料等が含まれている場合<br>宿泊料金の算出を要する） |
|             | オフ期対策  | ・価格調整による需給バランスの確立を阻害する。<br>（繁忙期に宿泊料金が上昇しても、影響しない）           | ・価格調整による需給バランスの確立を一定程度阻害しない。<br>（繁忙期に宿泊額が上昇した場合、宿泊者の税負担が増加する）                 | ・価格調整による需給バランスの確立を阻害しない。<br>（繁忙期に宿泊額が上昇した場合、宿泊者の税負担が比例して増加する）       |
| 先行自治体       |        | ・先行自治体での採用事例が増加傾向にある。                                       | ・先行自治体での採用事例が多い。                                                              | ・先行自治体での採用事例は、1団体（2025年8月時点）。                                       |
| 社会・経済状況への対応 |        | ・インフレやデフレなどに対応できない。<br>（宿泊料金が2倍以上になるような大幅なインフレの場合、税収は増加しない） | ・経済状況に一定程度適応できる。<br>（宿泊料金が2倍以上になるような大幅なインフレの場合、税収は増加する）                       | ・経済状況に適応できる。<br>（宿泊料金が2倍以上になるような大幅なインフレの場合、税収は増加する）                 |

◆ 宿泊者への課税内容が明確であるか。

宿泊者が、課税内容を即時に把握し、納得を得られる方式であるか。

◆ 事業者への事務負担が軽減されているか。

申告事務等が煩雑とならず、簡易な方式であるか。

公平な事務負担が実現するか。

◆ 導入目的を安定的・継続的に達成されるか。

事業を推進するために、安定的かつ継続的に運営する方式であるか。

◆ 公平・中立・簡素などの税の原則に反するものでないこと。

法定外目的税の新設に対する同意に係る処理基準及び留意事項等について

(平成15年11月11日付総税企第179号)

# 富士河口湖町における税制度の概要（案）

| 項 目     | 要 件                         | 考え方                                                                                                      |
|---------|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課税客体    | 町内に所在する宿泊施設<br>（民泊含む）への宿泊行為 | 課税の公平性を担保するためには、課税客体（宿泊者の宿泊行為）の確実な捕捉が必要であることから、宿泊者名簿の備付や保存義務が課されている旅館業法及び住宅宿泊事業法に規定する宿泊施設への宿泊者を納税義務者とする。 |
| 課税標準    | 宿泊施設への宿泊数                   |                                                                                                          |
| 納税義務者   | 宿泊施設への宿泊者                   |                                                                                                          |
| 徴収方法    | 特別徴収<br>特別徴収義務者が宿泊者から徴収し、納付 | 宿泊事業者、または宿泊税の徴収に便宜を有する者による特別徴収とし、旅館業法及び住宅宿泊事業法に規定する宿泊事業者を特別徴収義務者とする。<br>（宿泊事業者等が宿泊者から税を徴収し、町に納入する方法）     |
| 特別徴収義務者 | 旅館業法、住宅宿泊事業法に規定する事業者        |                                                                                                          |
| 申告期限    | 毎月末までに、前月の初日から末日分を申告納付      | 毎月の申告納付を基本とするが、負担軽減の観点から特例措置（3か月まとめた申告納付）も検討する。                                                          |

# 富士河口湖町における税制度の概要（案）

| 項 目        | 要 件                                     | 考え方                                                                                                           |
|------------|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 税額<br>(税率) | 宿泊者 1 人 1 泊あたり<br>定額200円                | アンケート結果からの回答が最も多く、町内宿泊施設は、ホテルや旅館、民宿、コテージなど多岐にわたり特別徴収義務者の事務負担が最も少ないことから、宿泊施設での徴収において混乱を緩和出来る。                  |
| 免税点        | 設けない                                    | 先行自治を参考に、旅行者に対し、公共サービスは全体的に享受されることから、金額ではなく宿泊者全体にご負担いただく考えのほか、特別徴収義務者の事務負担軽減を目的に免税点は設けない。                     |
| 課税免除       | 修学旅行その他学校行事                             | 先行自治体を参考に、修学旅行は学校の教育課程上「学校行事等」に位置づけられる教育活動であり、年少者の健全育成に資するものであり、公益性の観点から免除としたい。                               |
| 罰則規定       | 帳簿等の隠蔽、保存義務を怠った場合1年以下の懲役<br>又は50万円以下の罰金 | 地方税法等における法定外目的税に対する罰則が適用される。例としては、申告がなされない場合に町が税務調査をして税額を決定する。その調査を拒否した場合には、1 年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処される規定が適用となる。 |
| 見直し期間      | 原則5年ごとに見直し<br>(施行後問題が生じた場合は、<br>見直しを検討) | 先行自治体を参考に一定期間での見直しを検討。                                                                                        |
| 特別奨励金      | 2.5～3.0%<br>(導入後5年間は<br>特例措置+0.5%)      | 先行自治体を参考に導入後5年は宿泊税に対する負担も大きいことから特例措置の導入を検討。上限額については現在検討していない。                                                 |

# (参考) 富士河口湖町における宿泊税税収の試算

- ・ 第一回検討委員会で提示した通り、2024年の延べ宿泊者数（ウェイトバック推計後）を用いて、200円定額を仮定した場合の宿泊税収は約6億700万円と試算される。
- ・ なお、上記には、住宅宿泊事業法における民泊の宿泊者数が含まれていないことから、新たに民泊の宿泊者数も加算して推計したところ、200円定額を仮定した場合の宿泊税収は、約6億1100万円（0.63%増）の試算となった。

※あくまで試算であり、今後検討される税額や税率等の設定条件によって変動する。また現時点では課税免税や免税点を考慮していない。

【延べ宿泊者数】

| ホテル・旅館・簡易宿所等 | 民泊<br>(住宅宿泊事業法における民泊) | 合計        |
|--------------|-----------------------|-----------|
| 3,035,218    | 19,027                | 3,054,245 |

※1

※2

| 税額  | 延べ宿泊者数<br>(ホテル・旅館・簡易宿所等のみ) | 推定税収 (千円) |
|-----|----------------------------|-----------|
| 200 | 3,035,218                  | 607,044   |

| 税額  | 延べ宿泊者数<br>(民泊含む合計) | 推定税収 (千円) |
|-----|--------------------|-----------|
| 200 | 3,054,245          | 610,849   |

出典：

※1 宿泊旅行統計（観光庁）より、2024年1～12月の実績値からウェイトバック処理をした値を引用

※2 住宅宿泊事業 宿泊者実績（山梨県）より、2024年2月～2025年1月の実績値を引用